

☆Cha Cha Cha☆

研究通信 No. 30
令和6年2月19日(月)
文責：古谷

～小倉小学校での学び～

「いや～なるほど。こんな授業をしてみたい・・・。」それは、小倉小学校研究発表会の社会科のある先生学びからでした。第5学年の「世界遺産とともに生きる」の単元で「屋久島」を扱う内容でした。どんな授業をするのか楽しみに教室に入るとなぜか・・・もう、「あ、子供たちと先生の関係性がすごくいい！」と感じました。会話の内容・子供たちの笑顔、先生とのやり取りなど様々で具体的にこれ！とは説明できませんが、感じるオーラ・雰囲気がありました。そして、始まりから、「屋久島体操」といった屋久島にある古くからある体操をみんなです。授業へのモチベーションと活気が出ていきます。そして、屋久島のPR動画を流してみんなで屋久島を考える雰囲気をそっと作り上げるなんと絶妙なもっていきかた。決して無理やり感がないので、子供たちも素直に「あ～きれい。」「住んでみたい。」「癒される～」と自然に屋久島モードに入っているのが伝わります。ここで言えるのは、「決して無理やりではない。」ここをすっとできる先生の力量の高さを感じるとともに、「あ、たぶん今日の授業すごく子供を大切にされて授業をするのできっといい授業になる」と思っている自分がいました。その次、先生が、そっと「屋久島ってすごくいいよね。でもさ、今どんな状況?」「うん、危機に面しているんよね。それを今日考えようか。」と言って授業が開始しました。盛り上げて盛り上げて学習する雰囲気・土台を作っておいてさっと自然に授業に入る・・・私は、こんな入り方をする先生は見たことがなく、授業が始まるまでに感動してしまいました。授業の中身は、下の板書を見て分かるように子供たちの声を丁寧に拾って、繋げて板書されていました。実際に先生自身が屋久島に行って感じたこと、そこにいるGTの生の声(動画)を入れて構成し、ゆさぶりで実際の危機を聞くことで子供たちは夢中になって学習していました。もちろん、本時だけではなく、これまでの学習(1学期から)の積み重ねが随所にあり、改めて前時までの流れの大切さも感じました。

まだまだ素敵などころはたくさんありましたが、一貫して言えることは「**教師のコーディネートが子供を夢中にさせるか否かの分岐点だ**」ということです。本校でも1年間拘って考えてきた項目です。授業は「生物(なまもの)」なので、そこにいる教師の振る舞いで流れが大きく変わります。ぜひ、今後も研究の1つに入れるべきものだと再認識させてもらいました。小倉小学校のこの先生の授業は、ぜひ来年も見たい！と強く感じました。目の前の子供たちにも私のような気持ち(「もっと授業を受けたい!」「もっと勉強がしたい!」)になってもらうためにも、今後も日々授業改善をしていきたいと思えます。今回の出張は自分自身の学びの蓄積に大変役立ちました。ありがとうございました。

(気になる方は、他の掲示物や素敵な話もありますのでお気軽に古谷まで!)

